いきものいとおしらとおかし

第1回

変わった声がとりえ!?

地球上にいるさまざまな生き物たち。その「愛おしくっておもしろい」生きざまを、ちょっとのぞいてみよう。今回は、鳥の鳴き声に注目だ。

「なんて情けない声！」だって？ それにはわけがあるのです

「春告げ鳥」ウグイスの鳴き声といえば

「ホーホケキョ」

これを「さえずり」というよ。子どもをつくる時期のオスがメスを呼んだり、なわばりを守ったりするための声なんだ。ところで、春先に耳を澄ませると、

「ホー」「ホーホケ」

…と、なんとも中途半端なさえずりが聞こえてくることがある。

この声は若いオス。実は、あの美声は生まれてすぐ出せるわけではない。大人から学び、何度も練習してうまくなるんだ。

さらに、さえずりはパターンもさまざま。「ホ」が多かったり、「ケキョ」を繰り返したりと、バリエーションがある。「持ち曲」がわかれば、1羽ごとに「聞き分け」もできるそうだ。

「ホーホケキョ」のように、動物の鳴き声を人のことばに置き換えることを「聞きなし」という。「ホーホケキョ」は、漢字だと「法、法華経」（仏様の教えをまとめた本のこと）と書くんだ。また、よくウグイスに間違われるメジロの鳴き声は、「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と人の名前のように表現されるよ。

ペンギンの“ひと探し”、頼るのは顔じゃない？

「狩りに出かけたあのひと、そろそろ帰るころだけど…」

寒さの厳しい南極で暮らすコウテイペンギンは、巣をつくらない。大勢で集まって子育てをする。そのため、狩りから帰ってくると……

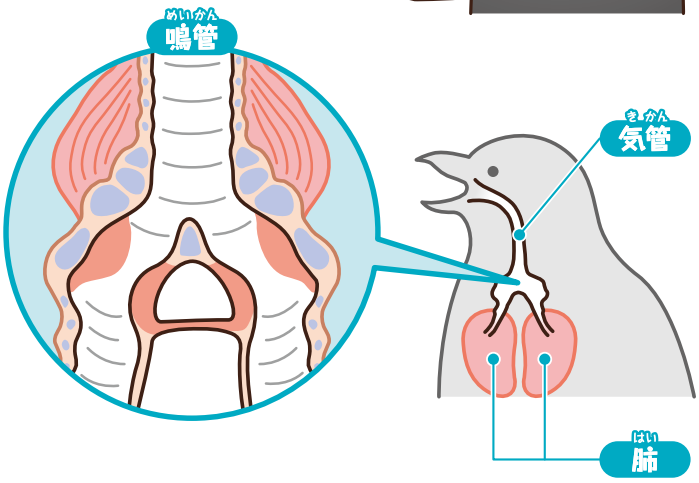
PIXTA

「あれ、ぼくの家族はどこ!?」

なんてことも。

そんなときに役に立つのが、「ピー」とも「ガー」ともつかない、特徴的な鳴き声。実はこれ、同時に二つの音を出しているんだ。「ツーボイス現象」と呼ばれているよ。

鳥の声を生み出す「鳴管」は左右に分かれていて、コウテイペンギンはそれぞれで違う音を同時に出す。これが1羽1羽の声に微妙な違いを生むため、声を頼りに家族を探すことができるのだそうだ。



鳴管の使い方は種ごとにさまざま。チャイロツグミモドキはすばやく左右を切り替えて鳴らしたり、しくみはわかっていないけれど、同時に四つの音を出したりと、すご技の持ち主。いったいどんな喉をしているのやら…。